～R7.7.31(木)地区代表校長会議【資料】～

岐阜県小学校図画工作・中学校美術研究会の持続可能な運営に向けて

岐阜小学校　清水也人

1. はじめに

本県図画工作・美術科研究会は、子どもの豊かな表現力と感性の育成、教員の指導力向上に資する重要な場である。しかし近年、教職員の働き方改革や教育課題の多様化により、研究会の継続と発展が困難となっている状況も見られる。持続可能な研究組織の在り方を検討することが急務である。

2. 現状と課題

(1) 人材の固定化と後継者不足
- 一部教員への依存が続き、若手教員の参加が限定的である。
- 組織的な人材育成や世代交代の仕組みが不十分な状況である。

(2) 研究と現場の乖離
- 忙しい学校現場との両立が難しく、研究参加のモチベーションが下がっている。
- 実践に生かしにくい抽象的な研究テーマが敬遠される傾向がある。

(3) 研究内容の固定化
- 研究会内容や形式に終始し、新鮮味や発展性に乏しい。
- 現代的課題（ＳＤＧｓ、ＩＣＴ、地域連携等）との接続が弱い。

(4) 成果の発信力不足
- 成果が限られた範囲にしか共有されていない。初任者から６年目教員は知らない（特に岐阜市）。
- 外部機関や県内６地区・６地区内地域との連携が少なく、広がりが生まれにくい。
  - →2016 全国造形教育研究大会岐阜市大会（【授業】５園・３小・４中・１高）
  - →2018 岐阜県東濃大会（【授業】１園・３小・２中）　※2020.4.新コロナ・緊急事態宣言
  - →2022 岐阜県西濃大会・オンライン（【授業】１小・１中）※2023.5.新コロナ・５類移行

3. 持続可能な研究会に向けた提案

(1) 若手教員の積極的参画の仕組み
- メンター制度の導入による段階的な役割移行
- 研究活動を日々の授業改善とつなげる目的意識の共有

(2) 現場と連動した実践的研究の推進
- 地域文化・自然・産業を活かした題材の開発
- 他教科や総合的な学習との横断的な取り組み

(3)「研修観」のアップデート
- 本研究会も「主体的・対話的・深い学び」「探究的なもの」へ
- オンライン活用による参加の柔軟化
- これからに「つなぐ」「ひらかれた」研究～リフレクションで明日につなぐ～

(4) テーマの更新と外部発信
- ＩＣＴ・生成ＡＩ・ＳＤＧｓと美術教育の接点に注目したテーマ設定
- 他都道府県との連携、全国規模での発表の機会確保

(5) 成果のアーカイブ化と共有
- 指導案・子どもの作品・映像記録のデジタル蓄積
- Ｂａｎｄ、県図工・美術ＮＥＴ、県造形連盟ＨＰによる公開と活用促進。代議員（Ｂａｎｄチーフ）

4. おわりに

図画工作・美術教育は、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力の育成を目指しているものであること、実際に対象に触れるなど直接感じ取る活動や身体活動を大事にしながら、表現や鑑賞のプロセスによる創造性や資質・能力を育む重要な領域である。研究会の持続可能性を高めることで、未来の教育においてもその価値を継続的に発揮することが期待される。

各校・各地域との協働のもと、柔軟かつ創造的な研究体制の構築を目指したい。